

新規事業採択時評価項目調書

1	事業概要	事業名	予防治山事業		
		事業場所	長門市依山字鷲ノ巣 地内		
		事業主体	山口県		
		事業期間	平成 31 年度 (西暦 2019 年度)	総事業費 (用地補償費)	30 百万円 (0.2 百万円)
		事業目的	<p>経年の豪雨により、山地の表面浸食や溪流の縦横浸食等の進行による土砂流出が生じ下流人家等への被害が発生している。溪流内には、不安定土砂が堆積しており、今後の降雨による土砂災害発生の危険性が高まっている。</p> <p>このため、当該事業を実施することにより、荒廃危険地の崩壊や荒廃の進行を未然に防止し、もって生活環境基盤の整備に資する。</p>		
	事業内容	治山ダム工 1基			
	事業効果	<p>治山事業の実施により、森林状態が良好に保たれ、水源のかん養（洪水防止、流域貯水、水質浄化）効果及び山地災害等によって失われる可能性のある資産等（人家1戸、農地2.3ha、市道160m）の保全効果が図られる。</p>			
2	評価の視点	(1)	当地区の社会経済情勢	<p>当地区は、長門市の南部に位置し、二級河川木津川の上流域にあたる山地である。下流には集落や市道など重要な保全対象が存在する。</p>	
		関係市町及び地元の意向	<p>地元からは早期着手を強く望まれている。 地元住民、関係者からの同意は得られている。</p>		

2 再 評 価 の 視 点	(2) 事業の投資効果	費用対効果等	(単位：千円)																													
			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>事業採択時 (基準年：2018)</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">便益 (B)</td> <td>①水源かん養便益</td> <td style="text-align: right;">651</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②災害防止便益</td> <td style="text-align: right;">76,218</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td style="text-align: right;">76,869</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td style="text-align: right;">28,653</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td style="text-align: right;">825</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td style="text-align: right;">29,478</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比 (B/C)</td> <td style="text-align: right;">2.61</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 費用(B)・便益(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】 林野公共事業における事業評価マニュアル【平成30年5月】 ①水源かん養便益 森林状態が良好に保たれることによって、洪水防止、流域貯水、水質浄化に寄与する便益について評価する。 ②災害防止便益 治山事業の実施により、山地災害等によって失われる可能性のある資産等の保全に寄与する便益について評価する。</p>	区分	主な項目	事業採択時 (基準年：2018)	備 考	全体事業	便益 (B)	①水源かん養便益	651		②災害防止便益	76,218					総便益	76,869		費用 (C)	①事業費	28,653		②維持管理費	825		総費用	29,478		費用便益比 (B/C)
区分	主な項目	事業採択時 (基準年：2018)	備 考																													
		全体事業																														
便益 (B)	①水源かん養便益	651																														
	②災害防止便益	76,218																														
	総便益	76,869																														
費用 (C)	①事業費	28,653																														
	②維持管理費	825																														
	総費用	29,478																														
費用便益比 (B/C)		2.61																														
3 環 境	(3) コスト削減・代替案等の可能性	コスト削減	再生砕石を工事用資材運搬道の敷砂利及び構造物の裏込材として利用する。																													
		代替案	治山施設を整備することで、森林の維持造成による公益的機能の増進と山地に起因する土砂災害の防止を実現することができ、代替事業はない。																													
		配慮事項	①現地発生木材の柵工、筋工への利用 ②竹炭を利用した水質浄化 ③排出ガス対策型建設機械の採用 ④間伐材の残存型枠への利用																													

【用語説明】